

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスプレミアムやよい坂		公表日		R8年 3月 23日	
		チェック項目		工夫している点		課題や改善すべき点	
		はい	いいえ				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		・ その日の下校時間や、ご利用者様の状態に合わせて柔軟に部屋を区切る、動線を変えるなどを行っている	聴覚過敏の方や急なパニックに対して、もっと音が響かない防音の場所が作れるか、場所があっても対象の方が移動できるか検討して、他の方から離れて過ごす場所の仕切りかた。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		配置基準を満たし、配置基準以上の場合も多い	今後も継続していく。しっかりとご利用者様の特性を把握し対応できるようにスタッフへの教育を続けていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	67%	33%	・ 分かりやすい掲示 ・ ロッカーなど個々に割り振られたものは、各特性に応じた状態にしている ・ 自己決定ができるように全て決定されていない状況も用意している	バリアフリーにはなっていない。これを日常生活動作の訓練とらえて関わり、危険予測などに役立てていることを多く保護者様に知って頂ける様に送迎時等を使いお話ししていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		・ 各種の菌やウイルスに合わせた消毒 ・ 消毒薬作り置きを分かりやすく書いていく ・ 広く部屋を使えるように、片付けも徹底している	今後もその時に流行っているウイルスによって消毒液を変えたり毎活動ごとに消毒を行っていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		部屋をわけて使えるようにしている。さらに分ける必要があれば硬くない養生シートなどを使って仕切りを作っている。	暖房や冷房など、細かく部屋分けをした際に各場所の温度管理が難しかった。施設自体のアンペアを変更するか、別の方法で快適な状況を作れるか調べる。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%		ミーティングの時間をうまく使っている。スタッフそれぞれの意見や見立てが話にあがるように工夫している。スタッフ間の連絡ノートも続けている。	ミーティングで、しっかりと振り返り、活動やご利用者様のご様子を伝えることが出来ている。ご利用者様は関わるスタッフによって見せる姿が違うことが多く、今後多角的にご利用者様を理解できるように努める。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		日々の送迎で保護者様と直接お話しする機会をとて大切にしている。	この評価票も活用している。意見は直接スタッフに伝えるという信頼関係を築けているため、なかなかアンケートに書いて下さる方が少ないが、アンケートという形を活かしてご意見を頂くように促す。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		朝のミーティングや個別面談などの機会を設けている。	日々のミーティングや個別面談を行っているが、個別面談などは様々な相談事もあり一人一人に予定よりも多くの時間をもらっている。なかなか終わらないため、時間を意識して行いたい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	33%	67%	行っていない分、スタッフがチェックを行い、管理職がダブルチェックをするように徹底している。	チェックをしていることで満足しないように、時々他店舗のチェックをしてみるなどの取り組みも良いと考えている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		内部研修を行っている。誰でも研修に行けるように開催の情報はスタッフに周知されている。	内部研修は年間スケジュールに基づき行われている。外部研修を増やしていきたいが、支援時間に行われるものばかりで、行けない。	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		毎月スタッフで意見交換しながら色々な活動を立案している。支援プログラムもホームページに公表している。	様々な取り組みを行っているが、まだトライしていない事や新しい切り口での既存の活動など、「新しい」という視点での活動の立案を意識していきたい	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		行なっている。さらに、いつも送迎時に保護者様と細かなことまで情報を共有し、現状の課題や成長を知ったうえで計画を作成している。	保護者様のお仕事やご家庭、ご家族様の時間など、なかなか事業所に足を運んで頂ける時間がとれず、モニタリングを行う際のアセスメントは送迎時に詳しくお話しすることで時間の都合を付けて頂いています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		行なっている。「個別支援会議」としていろいろなスタッフが参加して個別支援計画案を見ながら話し合いを行なっている。	スタッフそれぞれでの見立てや、実際にお子様達がスタッフによって違う態度や関わり方をされることもあり、様々な話があり、時間がいくらあっても足りなくなるため、しっかりと進行役に時間を意識して進めよう	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		スタッフは支援目標をもとに支援している。支援記録として、個別計画書の目標を基に日々の支援を行い記録に残している。	今後もしっかりとそれぞれのお子様達の目標を知り、それをめがけた支援を行なっていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%		契約時にアセスメントシートを用いてお子様の状況を把握し、モニタリング時にもアセスメントを行っています。	保護者様と毎回の送迎時に細かなやり取りを行い、日々状況把握に努めている事が役立っているため、今後も送迎時のやり取りを大切に、保護者様ケアにも努めていく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		本人支援、五領域、ガイドラインをもとに、調べ考えその上でそれぞれの方に合わせて設定している。	移行支援や地域支援の項目は放課後等デイサービスの一事業所だけの取り組みでは難しいこともあると感じました。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		ミーティング時にスタッフが色々な案を出して作成している。	同じことの繰り返しが必要な療育と、新しい事やお出かけの余暇活動を求める保護者様との両立に苦慮する時もある。	

切 な 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		利用されている曜日が様々な方や固定の方というので、どの子ももれなく様々な活動に参加できるように、なるべくバラバラにして設定し、内容も同じ記載ですがステップアップしていくように設定している。	上記と重なりますが、繰り返しが大変な療育となりますので、いかに日常的に繰り返し学び身に付けていけるかが大事な課題です。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		支援が偏らないような配慮をしています。それぞれの状態や特性を見ながら適宜に行っている。	集団でいることが苦手なお子様が多いのはもちろんですが、その苦手をデイで練習して、集団へ繋げていく、個別の支援ばかりにならないように気を付けていくなど意識し続けることを忘れないようにする。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		ミーティングを行い、様々なこと（送迎、活動、おやつ、関わり方、声をかけるタイミングなど）個人別に細かく状況を把握するために話し合っている。	個人個人話すので時間がかかってしまいスタッフの昼食の時間が短くなってしまいうため、終わりの時間を設定して始めたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	33%	67%	上記の中に含まれますが、ミーティングでは当日の支援に際し、今までの事が当然影響してくることもあるため、支援後ではなく翌日のミーティングで話を上げ、皆で振り返りを行い次の支援に繋げている。	こちら上記の通り、個人個人話すので時間がかかってしまいスタッフの昼食の時間が短くなってしまいうため、終わりの時間を設定して始めたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		日々、支援記録を残している。それもチェックして児童発達支援管理責任者が個別案をたてている。	支援しながら書くことは支援にならないので、しっかり集中して支援し、その後記入していますが、それは大変に時間の負担になっています。空き時間を使い記入していますが、書類と支援、命がけで守るスタッフの負担、きちんと制度として見直すことが必要と感じます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		行なっている。保護者のニーズをしっかりと伺っています。	家のご様子とデイ、学校、場所によってだいがご様子が違うのを理解したうえで、デイでの支援計画書を保護者様に納得して頂くことに多くの配慮とスキルが必要。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%		行なっている。常にアンテナを張り、よりよいものになるように意識して皆で考えている。	安心してご利用いただいておりますが、時折ガイドラインのことも保護者様と話し、プレミアムでは様々な取り組みを行っていることを知って頂く。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		デイの関わりの中で「やってみたい」「自分で選びたい」というお子様は増えました。失敗しても大丈夫という安心感もスタッフとの関係の中ではくまれているようです。	自己決定後のお子様達同士の様子や、やり取りなどは良く見ておかないといけません。失敗も経験が必要ですが、加減を見極めるスタッフも必要です。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		児童発達支援管理責任者はもちろん、他にも長い関わりのある方など、馴染みのスタッフも一緒に参加することもあります。	サービス担当者会議、時間を支援時間中を予定され大事な支援から一人スタッフが現場から抜ける、参加できないことに関して誹謗中傷される、中身の無い会議など。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		協力医療機関として連携している病院があります。	今後も様々な機関と連携して支援に活かしたい
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		行っている。こちらからもお問合せすることもあります。学校からも連絡があり、柔軟に対応している。	月の行事予定も以前よりもとても早くホームページで確認できるようになりましたので、事前にお子様達に対しての細やかな配慮ができるようになりました。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%		努めている。保護者様からも園での様子や、サポートブックなどを頂き、今までの保護者様方の思いや体験をしっかりと受けとっています。	園を卒業するタイミングで園の相談支援員から他の相談支援員に変更になる時にいつの間にか変わっていたり、情報がない場合もありますので、保護者様と色々な情報を交換できるようにしておく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		努めている。場所が違えばご本人の強いこだわりなどは色々変わるとは思いますが、現状のご様子をしっかりと伝えていきます。	色々伝えられる場合はよいのですが、連絡がうまくとれない場合もあります。担当の相談支援員がご本人に関わる各事業の情報を取りまとめを行う。これは相談支援員の仕事の内容でもあると考えます。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%		積極的に参加はしていません。	(33) とも重複しますが、大抵の場合、時間が大事な支援時間に重なることが多く、余剰人員が多く居るわけではないため、午前中で終わるものなどがあれば、参加もできるのではないかと思います。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%		桜十字グループとなり、すのこ小学校跡地の再開発工エリアなどでの地域イベントなどに参加しました。今後も参加して交流をしていきたい。	駐車場が少ない地域もあり、重度の方が多いため、移動手段や休憩場所などの確保に難あり。細かくチェックし安全を確保した上で行う。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	100%		積極的に参加はしていません。	研修の知らせなどをスタッフと共有しても、支援時間だから難しい、大事なお子様達のための研修とは思いますが、誰でも参加できるように午前中に終わるような研修を増やして欲しい。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		持っている。それを第一に考えて、日々送迎時の保護者様との関わりをととても大切にしている。	送迎時などにも多くお話するので、次の方までゆとりのある時間を取ってきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		積極的には行ってない。	研修など、良いと思っても「宣伝行為」になってしまうことを考えると、積極的には情報提供はしづらい。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		契約時に行っている。時折、忘れたころに雑談を交えてお話をしている。	保護者様の興味関心事にないことはすぐに忘れられたり、聞いていないことになってしまうため、それぞれの保護者様の状況に合わせた説明がある。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		アセスメントをモニタリング時期に行う事で、保護者様のニーズをより具体的に確認することが出来る。	子ども達は話せない子、字が書けない子、意思疎通がとれない子なども多くご利用です。今までの長い関わりから想像する事しかできない子もいらっしゃいます。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		書類を保護者様と一緒に見ながら、説明の上同意を得ている。	なかなかお目にかかれない保護者様やご家族様で説明を行っても保護者様ではないため印鑑やサインを頂けず何か月も待つことがあり、どうにもならず困ることがある。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		いつでも連絡頂ける管理者携帯電話があり、困ったときにすぐに助けや助言を求められるようにしている。	デイだけでなく先の将来についての質問も多くあるため、就労やグループホームについても多くの情報を持っておかないと質問やご不安に対応できない。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	100%		保護者会を開催しています。年に一度の予定です。	保護者会を開催していますが、決まった保護者同士で集まることが多く、色々な方との接点にはあまりなっていないと感じます。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		苦情窓口を設けている。苦情にならず、いつも気になったことをすぐに聞ける管理者携帯電話で細やかに対応している。	大きな苦情にならずにいるのは、日々の関わりからの信頼と、細やかに保護者様のニーズやニーズにない事などを把握できているから。今後も継続していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		毎月「プレミアム新聞」というものを保護者様に発行してお配りしている。ホームページもあります。	ホームページ、新聞、どちらも毎回保護者様に見て頂けるとは思わずに、どうしたらより読んで頂けるのかを考えて、興味を持つことができるようなものになりたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		十分に注意している。小さなメモ書きでもきっちりシュレッダーを通す事が決まり。	シュレッダーする物を入れる箱を置いていますが、個人情報が多い為、小さなメモからなんでもシュレッダー用箱に溜まっていき、定期的に処理しないと溢れかえってしまう。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		デイでのご様子で分かったジェスチャーやコミュニケーションの方法など、送迎時などに保護者様にお伝えするなどしてご家庭でのやり取りに繋げている。	デイだけの表現や感情など、ご家庭では見せない部分もあり、共有してうまく活かさない場合がある。
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		以前はバザーなどを行っていましたが、コロナで途絶えてしまいました。桜十字との連携で、今後はより大きな規模での地域との関わりを考えている。	沢山の不特定多数の方との接点で、感染症への対応、対策。そもそもそのような接点を望まれているという方もいる。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		行っている。子ども達と一緒に行動する避難訓練は口頭で保護者様に伝え、毎月発行のプレミアム新聞でもお知らせしている。	保護者様にお伝えはしていますが、日々の生活の忙しさもあり、覚えていない方も多くいらっしゃいます。折を見てお伝えしていくことが必要です。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		災害時対応の研修や子ども達も参加しての避難訓練を行っている。座学研修も行っている。	備えはそれぞれの事業所で必要ですが、コロナの時のような大きな影響がでるものに関して、国や市から保護者へ放課後等デイを使う際の取り決めなど周知やサポートがなかったため、ご説明に明け暮れ、医療現場のように追い込まれていた。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		確認している。アセスメントにご記入頂いた情報や変更などあった場合も保護者様から教えて頂いてスタッフと情報共有している。	その都度何か変更や対応があれば教えて下さる方がほとんどですが、新規契約の方などで病気を言うと預かってくれないかもしれないと考えてしまう方もいるようです。情報をそのまま伝えて頂くことで安心安全な支援ができる事を知って頂く。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	50%	50%	現在のご利用者様で食物アレルギーの方はいませんが、以前ご利用のアレルギーの方には診断書などの情報を頂き対応していた。	医師の指示書があれば確実に対応できますが、病院受診なく、保護者様からアレルギーだからと依頼されることもあります。お子様の特性上病院に連れていけない方もいるので、訪問で医療が受けられるような制度が活用されないと親子だけでなく通所サービス側も難しい問題があります。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		行っている。研修は年間スケジュールに基づいて行い、ハード面でも定期的にチェックをして、安全な状態を管理している。	経年劣化に伴う外壁や室内の消防関係も担当の者が行っているため問題ありませんが、蜂が近所に巣を作って飛んでくるなどの身近な急な問題にも目を向けて取り組んでいく。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		コロナ後、保護者様への説明や内容の周知を行いました。小さくとも台風などの災害、予想されるものに関して毎回丁寧にやり取りしている。	周知は行いましたが、その理解が続いているか、この自己評価票をきっかけに振り返ると、理解は継続努力が必要だと気がきます。今後も押し付けにならないように配慮しながらしっかりと保護者様へ周知していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	100%		行なっている。ヒヤリハットを報告書に書き、スタッフ達でしっかり共有しヒヤリで済むように次に向けた意見交換をしている。	4月などに新規のご利用者様が来られると色々なところで、いつもと違う影響がでて想像していないヒヤリが起こる可能性がある。そのことも踏まえて検討していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		研修、委員会活動などでしっかりとスタッフの意識を高め、統一した考えで取り組めるようにしている。	今まで、スタッフの離職がほぼなく同じメンバーで支援をして、何でも忌憚なく話し合い注意し合える関係がとても素晴らしいところですので、これから新人スタッフが入り、その関係を崩さずしっかりと発言もできるように支えていきたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	83%	17%	「やむを得ず身体拘束」という仕組みなどは内部研修で理解している。それを行う事業がないため、記載などもない。	それを行う事業なども研修内容の一つとしてあげていき、スタッフの知識の幅を広げていきたい。	